

《用語解説》

エコハウス

省エネルギー性能を高めたり、再生可能エネルギーを導入したりすることで、環境負荷を軽減した住宅。

エコロジカルネットワーク

生物多様性を保全するため、生態系の拠点を適切に配置し、つながりをもたせること。

SDGs（持続可能な開発目標）

Sustainable Development Goals。持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（経済・社会・環境に統合的に対応する 2016 年以降 2030 年までの国際目標）の中核をなす目標。

オープンスペース

公園や運動場、水面等、建物に覆われていない土地や敷地内の空地の総称。

温室効果ガス

太陽光によって暖められた地表面から放出される赤外線を吸収し、大気を暖め、一部の熱を再放出して地表面の温度を高める効果をもつガスのことであり、二酸化炭素やメタン等。

気候変動適応策

既に起こりつつある気候変動の影響・被害を軽減するための備えと、新たな気候条件を社会の発展につなげる方策のこと。

クール・チョイス 運動

省エネ・低炭素型製品への買い替え、サービスの利用、ライフスタイルの選択等、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動。

固定価格買取制度（FIT）

太陽光、風力等の再生可能エネルギー源を用いて発電された電気を国が定める固定価格で一定期間、電気事業者に調達を義務づける制度。

再生可能エネルギー

太陽光、風力、水力等、自然界で起こる現象から取り出すことができ、枯渇することがないエネルギー。

循環型社会

廃棄物の発生を抑え、使用済製品がリユース・リサイクル・熱回収等により適正かつ循環的に利用され、その他は適正処分によって、天然資源

の消費を抑え、環境負荷をできる限り少なくする社会のこと。

3R（スリーアール）

リデュース（廃棄物の発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）の頭文字をとった言葉で、循環型社会を形成するための重要な考え方。

生物多様性

いろいろな生物が存在している様子で、生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性の3つのレベルの多様性により、生命が豊かに存在すること。

低炭素社会

化石エネルギー消費等に伴う温室効果ガスの排出を大幅に削減し、世界全体の排出量を自然界の吸収量と同等のレベルにしていくことにより、気候に悪影響を及ぼさない水準で大気中の温室効果ガス濃度を安定化させると同時に、生活の豊かさを実感できる社会。

都市鉱山

金・銀・銅等の貴金属や希少金属を含む使用済み小型家電を都市にある鉱山と見立てたもの。

燃料電池自動車（FCV）

搭載した燃料電池の水素と酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーでモーターを回して走る自動車。

ヒートアイランド現象

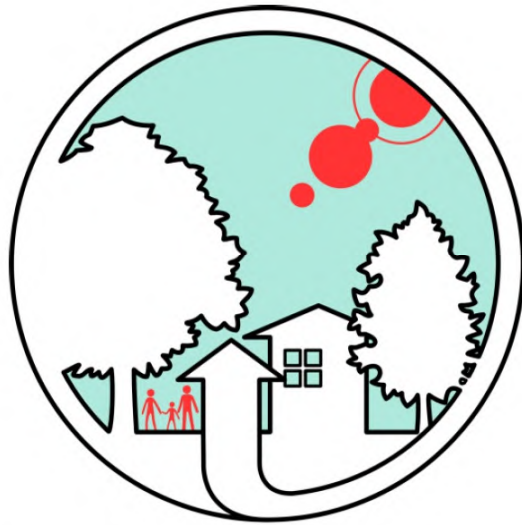
都市域において、人工物の増加、地表面のアスファルト等による被覆の増加、それに伴う自然的な土地の被覆の減少、冷暖房等の人工排熱の増加により、地表面の熱収支バランスが変化し、都心域の気温が郊外に比べて高くなる現象。

未利用エネルギー

工場排熱、外気温との温度差がある河川や下水等、有効に利用できる可能性があるにもかかわらず、これまで利用されてこなかったエネルギーの総称。

ワンウェイプラスチック

一度使用された後、ごみまたは資源として回収されるプラスチック。ストロー等の食器容器やレジ袋、ペットボトル等。



マチごとエコタウン
TOKOROZAWA

マチごとエコタウン所沢構想実績報告
(平成26年度～30年度)

令和元年12月

発行 所沢市環境クリーン部環境政策課
〒359-8501 所沢市並木一丁目1番地の1
TEL : 04-2998-9133
✉ : a9133@city.tokorozawa.lg.jp